



まつなが しげまさ (本名: しょうじ) (芸術)

昭和5年(1930年)2月27日 生
(満93歳)

【写真は本人提供】

松永氏は熊本県芦北町で生まれる。初代肥後三郎である父・松永重児氏のもと弓師の修行を始めた。先代が亡くなると、二代目として肥後三郎を継承。全国植樹祭開催期間中に天皇陛下が伝統工芸館を視察される際、陛下の前で実演披露をした。熊本県伝統工芸協会会長、全日本弓道具協会副会長、熊本県弓道連盟常任理事を歴任した。また肥後三郎弓は、昭和62年に熊本県伝統的工芸品として知事指定され、肥後三郎弓の制作技術は平成14年に県重要無形文化財として指定された。

氏の作る肥後三郎弓の特徴は、京弓のしなやかさと薩摩弓の強さというそれぞれの長所を合わせ持つところにある。氏の弓は、良質の真竹、ハゼ、ニベ（鹿皮の接着剤）といった伝統的な材料を使い、完全な手作りである。特にニベの使い方に独自の工夫が凝らされ、その工夫によって形が美しく、弓の張りには弾力があり、つる音や冴えがよい弓となるといわれる。現在、合成接着剤を使ったものやグラスファイバー製の弓が多い中、伝統的な材料や技法を継承した手作りの肥後三郎弓は、弓道界で最高峰ともいわれている。また、自身も幼い頃から弓道をたしなみ、全国弓道具協会副会長や県弓道連盟常任理事を務めるなど、弓道の普及発展に貢献してきた。さらに肥後三郎弓の国際的な評価は高く、愛用者でもある国際弓道連盟理事・英国弓道連盟会長故リアム・オブライエン氏との交流を通じて、海外への弓道及び日本の武道精神の普及にも貢献した。氏は、80歳を期に、現役を引退したが、その技術は後継者である息子の松永弘澄氏に受け継がれた。このように肥後三郎弓の制作者及び弓道家として、また後継者の育成指導に情熱を注いだ。

これらの功績から、第11回くまもと県民文化賞特別賞、全国日本弓道連盟功労者表彰など多数の賞を受賞している。

- 昭和22年 父 松永重児氏のもとで弓師の修行を始める
- 昭和60年 重児氏が亡くなり、肥後三郎（二代目）を継承する
- 昭和62年 肥後三郎弓が熊本県伝統的工芸品の知事指定を受ける
- 平成6年 熊本県伝統工芸協会会長就任（～平成10年）
- 平成8年 全日本弓道具協会副会長就任
- 平成9年 熊本県弓道連盟常任理事就任
- 平成14年 肥後三郎弓制作技術が県重要無形文化財に指定される